

# No.8 株式会社御祓川

# 小さくとも、まち・みせ・ひとが循環する未来・能登

能登の里山里海に根差した営みを未来につなげるため、  
企業が支え合い、影響を与えあいながら挑戦することで、人が育つ土壌を耕し続けている

地域中間支援者 幹事法人



株式会社  
**御祓川**  
みそぎがわ



## 能登の人事部

**人を集めるのではなく、「人が集まる企業」を育てる。**

人事＝採用ではない。人事とは、「人」に関する専門家。

経営にとって最重要資源である「人」と、「経営」の関係を適切に紐づけ、

人育てを担うことで、未来に向かって事業を伸ばし、「人が集まる企業」づくりを支援します。

### 御祓川のビジネスモデル

- ① 経営者の学びの場をつくる
- ② 能登の人事部としてのソリューション
- ③ 地域外のリソースを能登の地域企業とつなげる

人が育ち、  
事業が育つ好循環をつくる。



## 01 自ら考え、行動できる社員を育成 人材育成の仕組みづくり

社員研修（経営幹部・管理者・新人・会社全体）、  
人事評価制度やマニュアル作成、社員参加型の経営計画  
づくり、コーチングなどを行います。

## 02 本当に必要な人材とめぐり合う 採用求人支援

能登のお仕事紹介サイト「能登で働く」にて、求人記事  
の執筆～掲載を行います。自社の魅力や事業の強みを、  
求職者に響く視点で丁寧にお伝えします。

## 03 重要なことに人手を割けるように IT・業務効率化

メールやファイル整理などの細かい業務から、Excelを  
ベースとしたデータ管理の効率化、クラウドサービス、  
ECサイトの導入支援など幅広くサポートします。

## 04 組織に変化と刺激を取り入れる 外部人材活用プログラム

長期実践型インターンシップ「能登留学」、兼業人材  
活用プログラム「ふるさと兼業」等を通じて、  
多様な外部人材の活用による組織改革・経営改革に挑戦！

# 地域課題について①

## 能登半島地震がなくても人材が流出しつづける構造

- ・18歳までの教育で能登の魅力を感じさせられていない
- ・ロールモデルの様な活躍している若者が少なく、魅力的な仕事がないとされている
- ・住居がないことや地域の人間関係や不便さから生活が大変

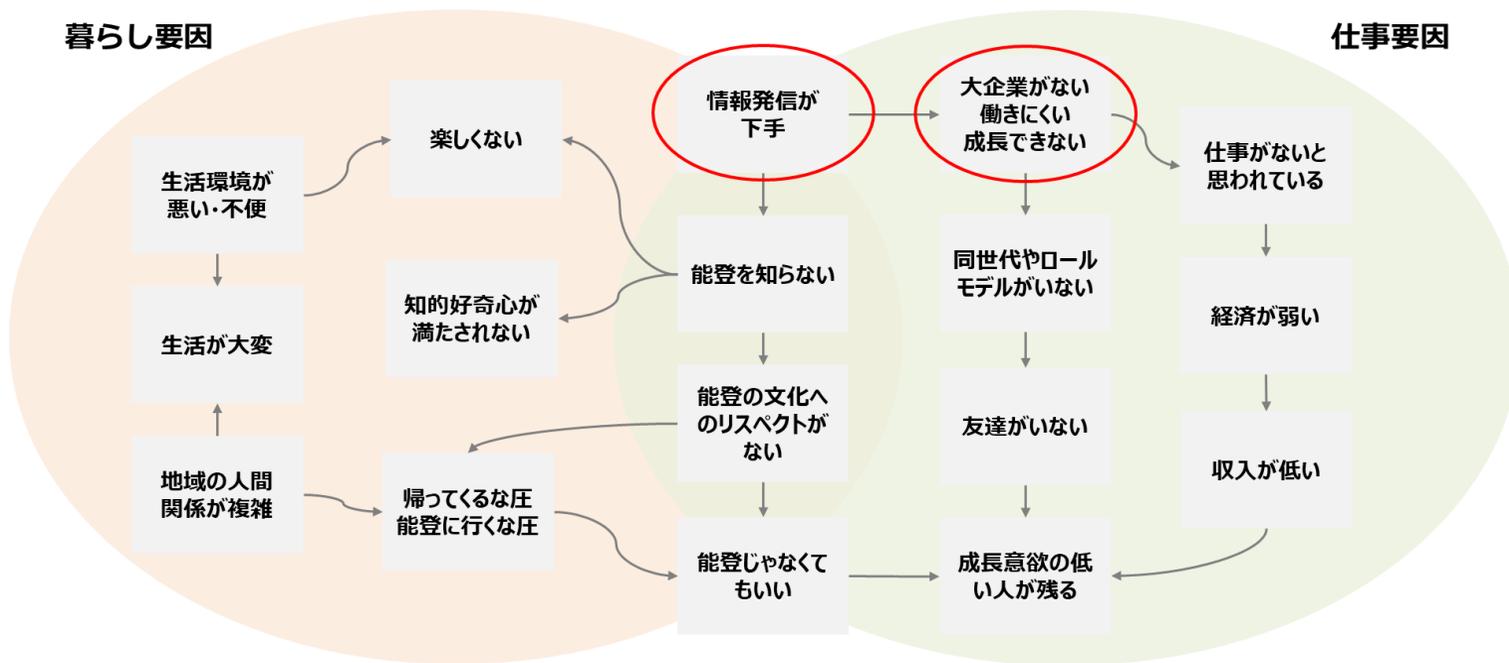
### 【議題】

なぜ若者は能登に集まらないのか？暮らしを大切にしたい層が苦しむ構造を変えたい

### 能登に若者が集まらない構造化分析

#### 暮らし要因

#### 仕事要因

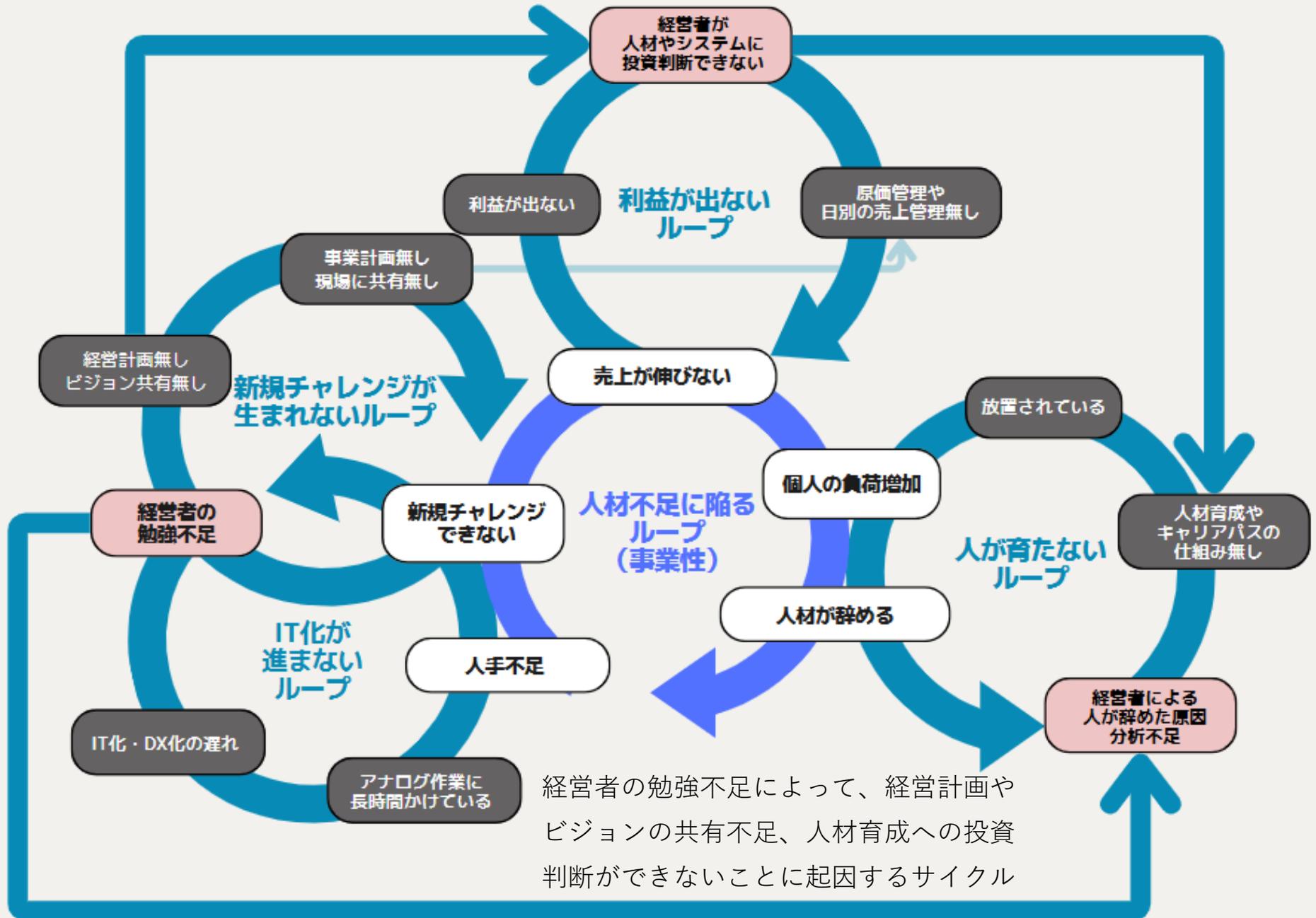


### その他参加者の声

友達ではなく、目的を共有できる経営者の集まりを増やしていく必要がある

仕事外の時間を充実するための地域同期づくりをしたい

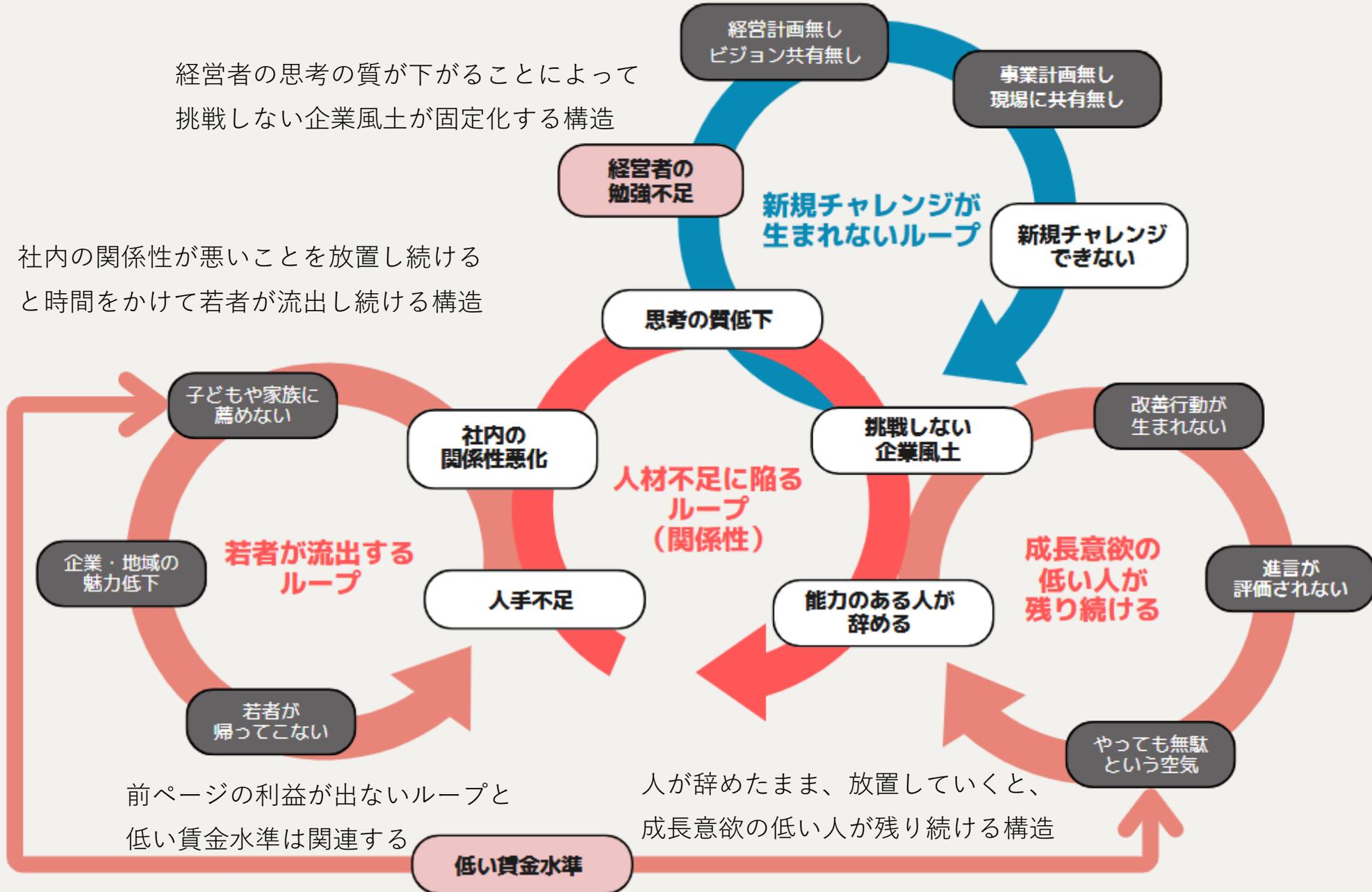
若者視点の情報発信より地域からの支持が大切



経営者の勉強不足によって、経営計画やビジョンの共有不足、人材育成への投資判断ができないことに起因するサイクル

経営者の思考の質が下がることによって  
挑戦しない企業風土が固定化する構造

社内の関係性が悪いことを放置し続けると時間をかけて若者が流出し続ける構造



### ヒアリングから民間側でも注力できる事項（赤色）

#### 共通する課題

##### ■ 労働力不足

- ・地震の影響で従業員が減少し、新たな人材の確保が困難。
- ・高齢化が進み、若い労働力が不足している。
- ・特にITなどの専門技術を持つ人材・職人や管理職が不足。

##### ■ 住居問題

- ・地震で住居が被害を受け従業員の住む場所が確保できない。
- ・仮設住宅や寮の不足が深刻。

##### ■ 設備・インフラの損壊

- ・製造設備や工場が地震で損壊し、再建が必要。
- ・道路やインフラの復旧が遅れている。

##### ■ 販売・営業の停滞

- ・地震の影響で観光客が減少し、売上が低下。
- ・商品の在庫管理や流通に問題が発生。

##### ■ 資金調達の困難

- ・復旧・再建に必要な資金の確保が難しい。
- ・補助金や支援金の申請が煩雑で、手続きが進まない。

#### 共通する要望

##### ■ 労働力の確保

- ・若い人材の育成や地域への定住促進。
- ・季節労働者や専門スキルを持つ副業人材の活用。

##### ■ 住居の整備

- ・仮設住宅や社員寮の建設支援。
- ・住居の確保を通じた労働力の安定化。

##### ■ 税制優遇措置

- ・固定資産税の減免や免除。
- ・地方税の軽減措置。

##### ■ インフラの早期復旧

- ・道路や公共施設の早期復旧。
- ・インフラ整備の迅速化。

##### ■ 資金支援の拡充

- ・補助金や支援金の手続き簡素化。
- ・長期的な資金支援の確保。

##### ■ 地域振興策

- ・観光業の復興支援。
- ・地域資源を活用した新規事業の推進。

### ヒアリング企業（業種）

和倉炊飯(商社)、のと復耕ラボ(里山事業)、珠洲焼/篠原 様(伝統工芸)、櫻田酒造(酒造)、日の出大敷( 漁業)  
丸一観光(観光業)、木ノ浦ビレッジ(宿泊業)、みんなの馬(観光業)、ゆめうらら(農業)、山王神社(神社)  
岸田木材(製材業)、大野製炭工場(製薪炭業)、能登森林組合(林業)

# 実証ラボ 参画企業概要



# 会員企業紹介



企業	所在地	業種	概要	従業員数
(有) 白崎シーサイドホテル	七尾市	宿泊	和倉温泉で140年続く老舗旅館「多田屋」	30
数馬酒造(株)	能登町	酒造	創業156年の奥能登を代表する銘柄「竹葉」の醸造元	18
(株) エフラボ	七尾市	製造業	日本最大の椅子再生工場 県産材を使用したソファの製造・販売も行う	53
(有) 七尾自動車教習所	七尾市	教習所	創設67年の自動車教習所。ドローン講習や宿泊施設運営も	35
ザアグラリアン テーブル合同会社	珠洲市	宿泊	能登半島最果ての宿泊施設、木ノ浦ビレッジを運営	13
岸田木材(株)	氷見市	製材業	創業142年の製材業・土木建築請負業 ひみ里山杉のブランド化	40
(株) 丸一観光	七尾市	観光	1965年運送業を創業。「みどりのバス」で観光バスやタクシーの運営	85

# ローカルゼブラ 企業概要と ロジックモデル





# みらいに株式会社

創業 : 2021年

業種 : ITコンサルティング

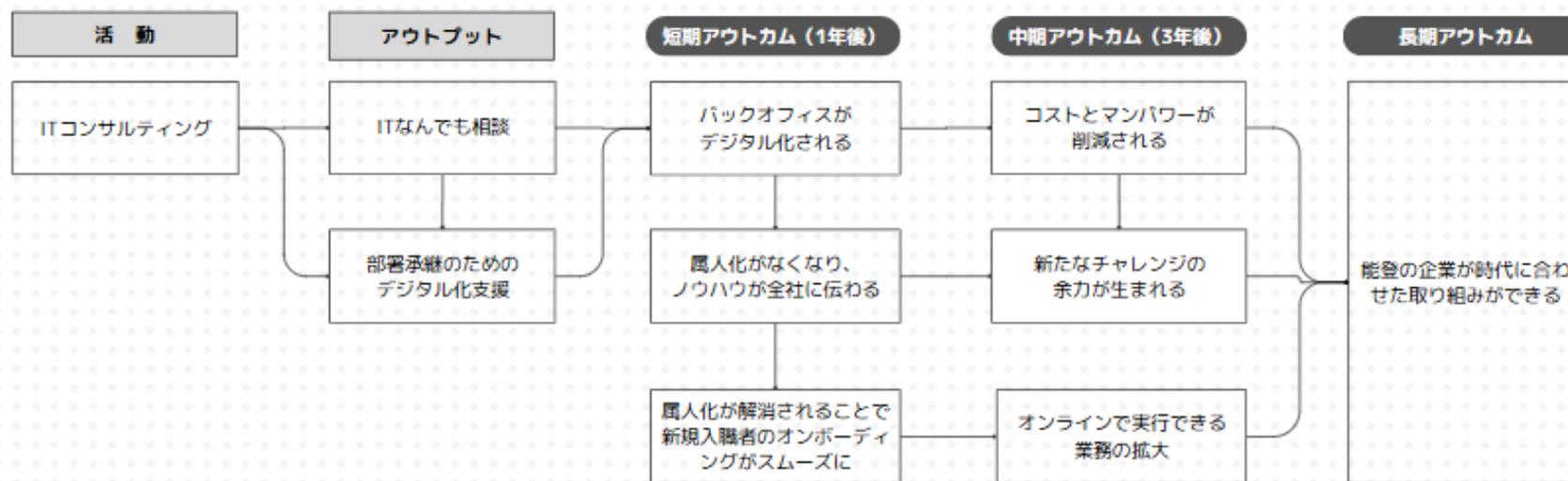
代表者 : 長岡 幸佑

従事人数 : 2人

## 能登が能登らしく発展し続ける社会のために

ITなんでも相談サービス、ITお困りごと解決サービス、奥能登の部署継承窓口サービスを通じて、ITリテラシーの低い地方の中小企業の弱みを補完する。ITソリューションで能登の中小企業を支える会社。

### みらいに(株) ロジックモデル





創業 : 2021年

業種 : 投資・コンサルティング

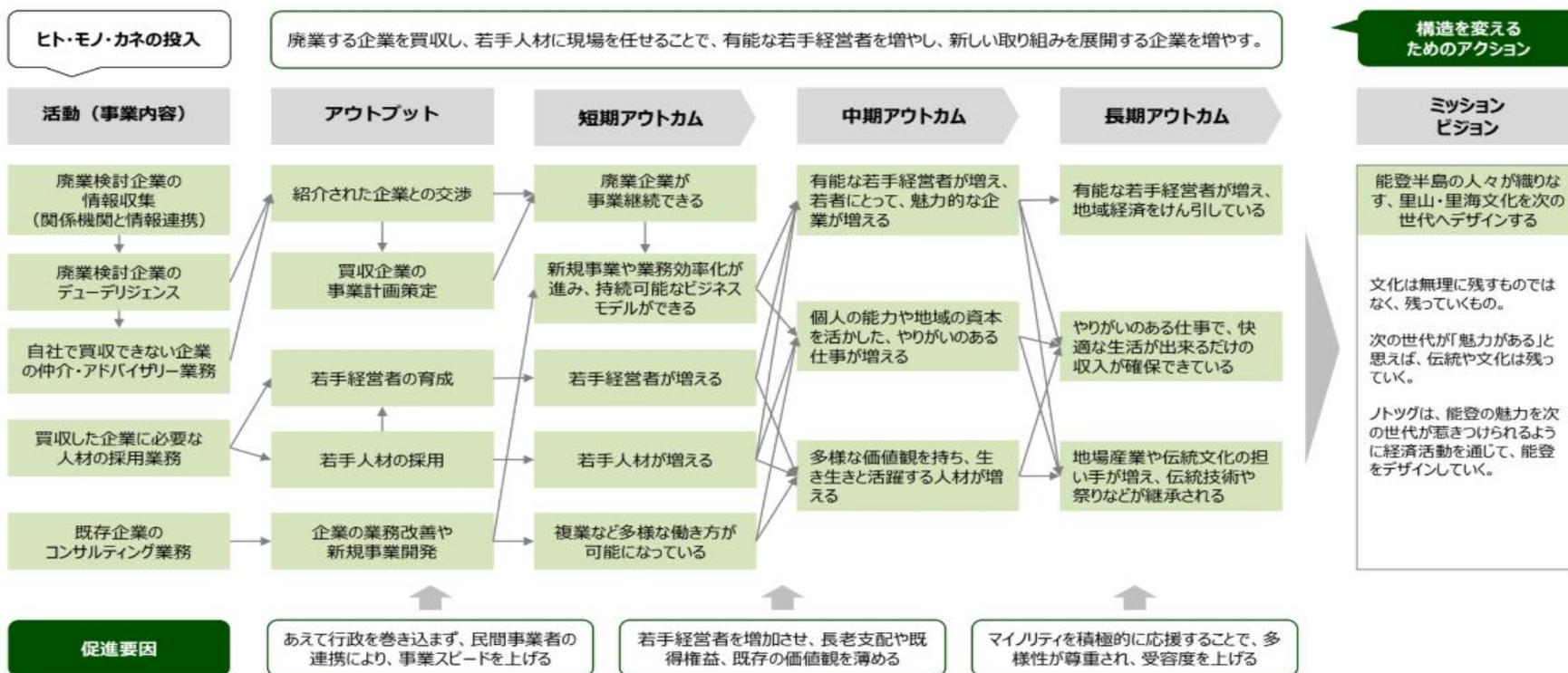
代表者 : 友田 景

従事人数 : 5人

## 地場産業をアップデートし、能登の里山里海文化の持続可能性を高める

能登の廃業問題にフォーカスし、後継者不在等によって廃業する事業所を引継ぎ、事業継続を目指す。資本提携や人材投入などの手段を駆使し、ハンズオンで実行する。若手経営者を増やすことがKPI。

### (株)ノツグ ロジックモデル



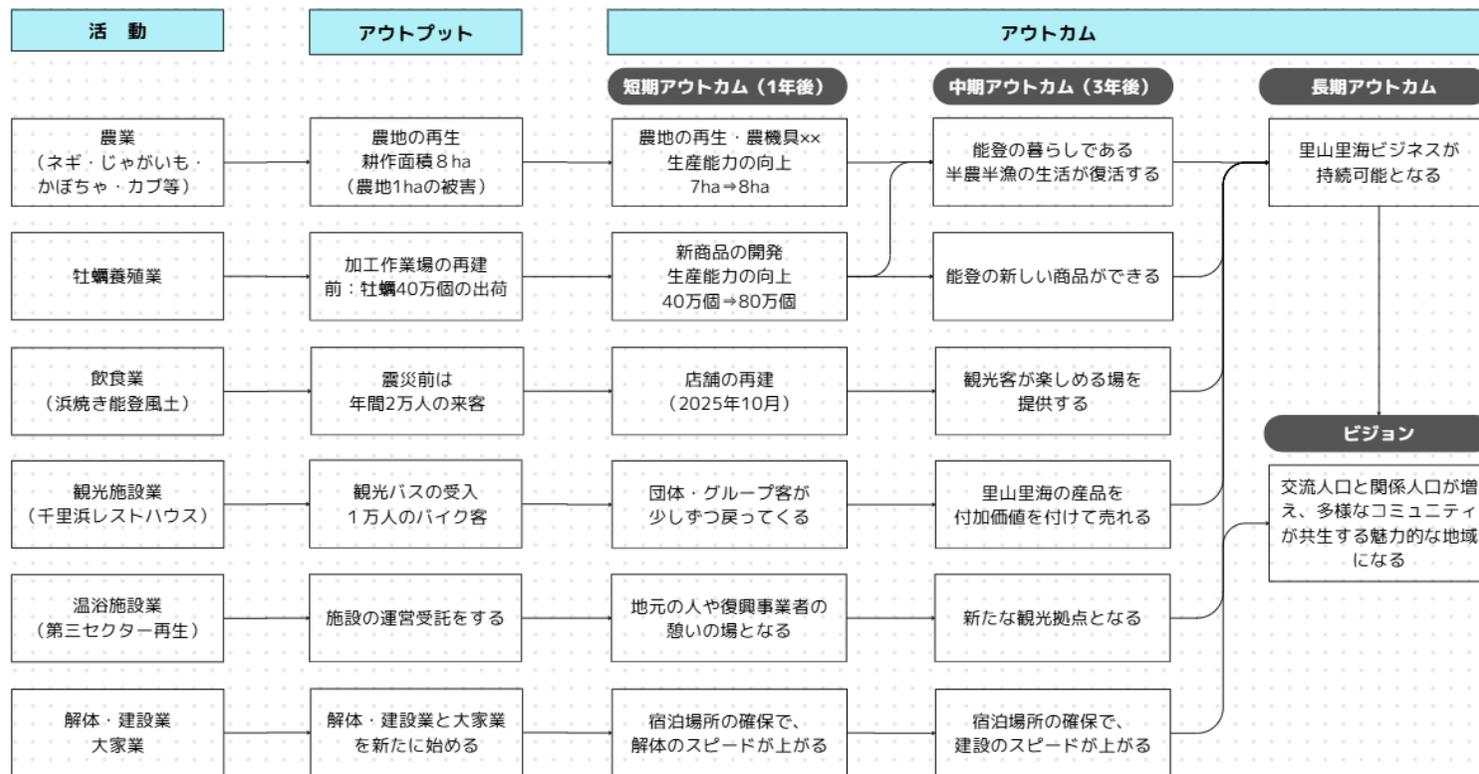


# 今誰かがやらなければ、10年20年先の能登の未来はない。

創業：2015年 代表者：酒井 光博 業種：複合企業 従事人数：25人

「農業」「漁業」「飲食業」「観光施設運営」4つの事業に加えて、震災後に「温浴施設」と「解体建設業」をはじめ。能登の一次産業を守り繋ぐため、多様な協力体制を駆使し 地域全体で生業が継続していく仕組み作りに取り組む。

## (株)能登風土 ロジックモデル



# 地域エコシステムの全体像

## ローカルゼブラ



バックオフィスIT化



事業買収投資



共創ツアー受入

コーディネート

幹事法人



株式会社  
**御祓川**  
みそぎがわ

地域中間支援者

伴走支援

## 域内企業（実証ラボ）

数馬酒造 (株)

(株) エフラボ

岸田木材(株)

(株) 丸一観光

(有)白崎シーサイドホテル

ザアグラリアン  
テーブル(合)

(有)七尾自動車教習所

実証ラボ勉強会の様子



視察in三豊の様子

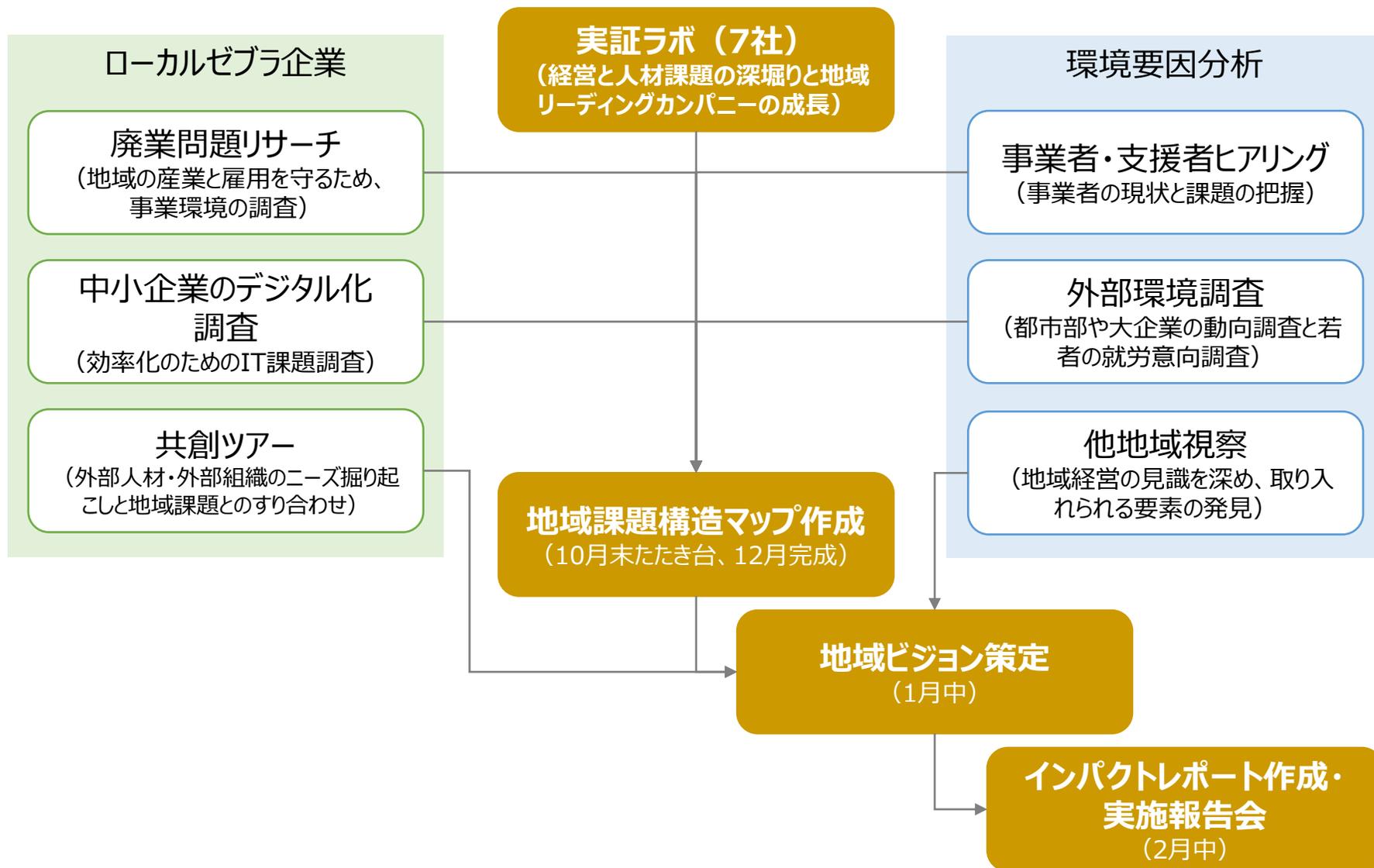


のと発酵的復興会議2025の様子



# 策定プロセス

## 実証ラボの取り組み全体像



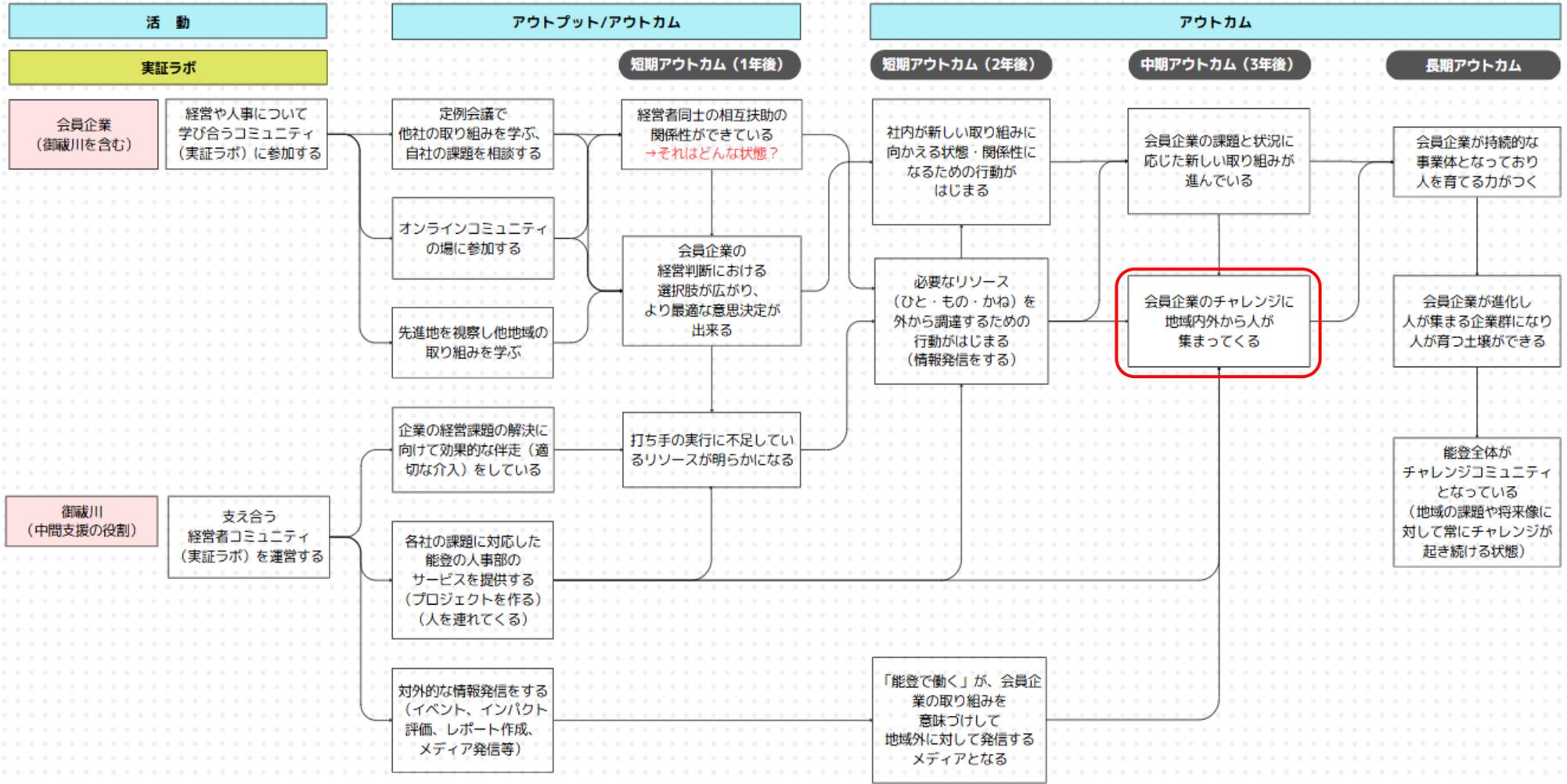
## 実証ラボの取り組み概要



## ローカルゼブラ実証ラボ

- 8月 先輩経営者に学ぶ人事評価と教育制度 北原良彦 氏
- 9月 人が集まる企業になるために NPO法人G-net 南田 修司 氏
- 10月 地域課題マップの深堀WS
- 11月 家業+新領域の変革事例 千年建設 岡本 拓也 氏
- 12月 100の課題から100の新規事業 小高ワークスベース 和田智行 氏
- 1月 人が集まる企業とは 日本仕事百科 ナカムラケンタ 氏
- 2月 地域ビジョン/インパクトレポート

# 実証ラボ ロジックモデルとKPI



KPI：能登の実証ラボの企業群に地域内外から集まってくる人数 & 改善プロジェクト数

# インパクト戦略

ローカルゼブラ3社のロジックモデルと、  
中間支援組織、実証ラボのロジックモデルを統合。

## 発酵的復興 ビジョン実現にむけてのインパクト戦略

ビジョン

ビジョン

**小さくとも、まち・みせ・ひとが循環する未来・能登**  
能登の里山里海に根差した営みを未来につなげるため、  
企業が支え合い、影響を与えあいながら挑戦することで、人が育つ土壌を耕し続けている

**長期** 里山里海ビジネスが持続可能になる

- 能登の営みを未来につなげる活動が各エリアに広がっている状態

**長期** 能登全体がチャレンジコミュニティになる

- 地域の課題や将来像に対して常にチャレンジが起き続ける状態

**長期** 人が集まる企業群と人が育つ土壌ができる

- 各企業が進化し、人を育てる力がついており、お互いに良い影響を与えあっている状態

長期  
アウトカム

10年後

中期  
アウトカム

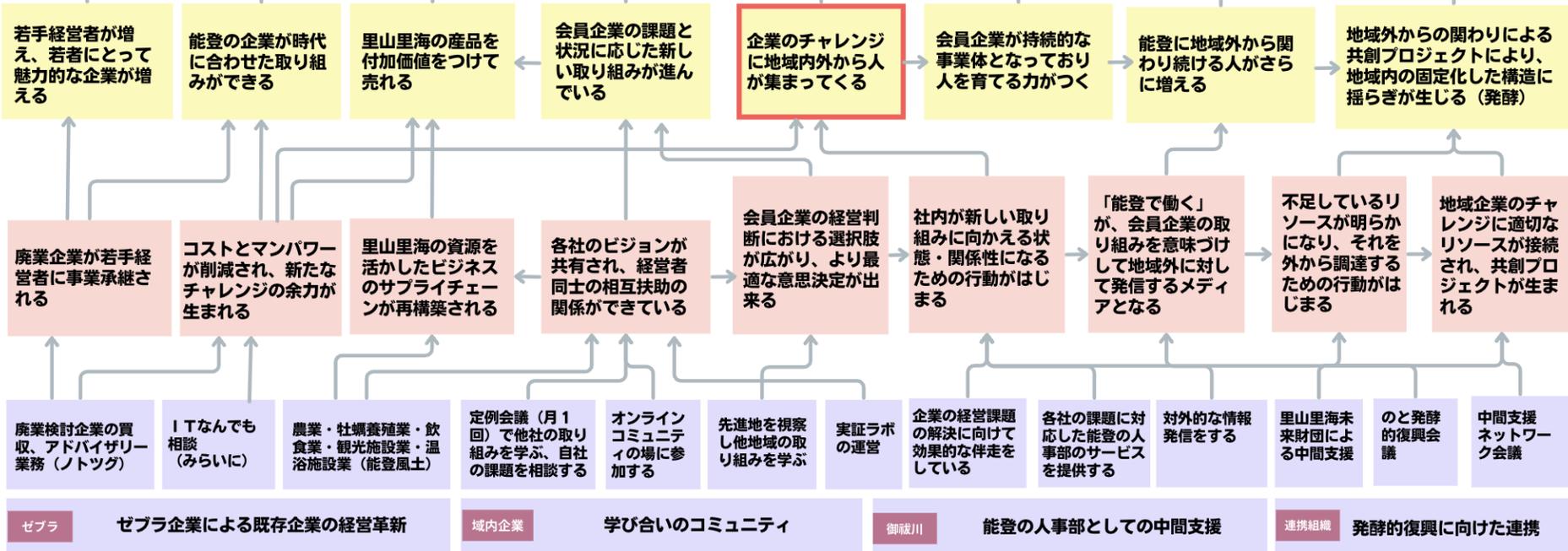
5年後

短期  
アウトカム

3年後

活動

活動の柱



## 教訓

# 小さなビジョンの集合体が地域のビジョンになる

各社の復興が能登の復興となる ⇒ 発酵的復興には時間がかかる

能登半島地震からの復興を考えるフェイズで、各社・各エリアの状況が違いすぎるなか、**共通の地域ビジョン**を掲げるということに実証ラボでは違和感があった。そこで、**各社が目指すビジョンに向かって復興していくこと**で、主体性を持った活動が可能となり、その**集合体が地域を育むこと**につながるというエコシステムのあり方を共有した。復興のプロセスにおいて地域内外との関わりから、時間をかけて地域の構造を変化(発酵)させるように、発酵的復興というコンセプトで各社のビジョンを共有し続けるつながりを構築することができた。



## まとめ：人が育つ土壌を耕し続ける

- ・ 未来を見据えた意欲のある**若い経営者**を増やし、常に**学ぶ経営者**を育てる = 実証ラボの継続
- ・ 会員企業の**チャレンジ**に**人が集まる**ことで、改善プロジェクトが進む(**発酵的復興**)
- ・ **実証ラボが発展**することで、地域インパクトが大きくなり、人が育つ土壌が耕される

